

第2回江別市行政審議会（第1部会） 会議録（要点筆記）

日 時：平成29年12月28日（木） 9:30～12:15

場 所：江別市民会館 21号室

出席委員：押谷一部会長、碓井和弘委員、安孫子建雄委員、岸本佳廣委員、萩原英樹委員
山崎雅江委員、豊田選子委員、中井和夫委員（計8名）

事務局：北川企画政策部長、福島企画政策部次長
政策推進課中島参事、天明屋主査、山口主事

傍聴者：1名

■開会

■議事

■まちづくり政策点検シート担当部局ヒアリング

○押谷部会長

本日のヒアリング対象は政策01自然・環境、政策05都市基盤、政策09計画推進となっております。まちづくり政策点検シートについて関係部局より説明願います。

【政策01自然・環境】

【環境課長から施策01人と自然の共生について説明】

【質疑】

○押谷委員

基本的には計画通りに進んでおり、大きな変更がなく今後進めていくとのことですが、いかがでしょうか。

○安孫子委員

1ページDoの欄で、「石狩川流域300万本植樹 in えべつ」と記載されておりますが、これは実際にどのような事業なのでしょう。ある団体が公共施設や学校等に植樹をしたいと相談した際に、江別市には植樹をする場所がないという回答を受けたと聞いております。

○環境課長

平成5年に石狩川流域の首長が集まり、石狩川サミットを設立しました。その中で、石狩川流域で植樹を進めるとの申し合わせがあり、それを受けて流域の各市町村で石狩川流域に植樹をしていくといったことが事業開始の発端です。

江別市ではこれまで15回ほど行っており、石狩川を管理している札幌開発建設部との共催により年1回石狩川河川流域で行っております。

参加者については流域の各市町村、河川関係の団体を中心に約100名が参加しており、毎年約360本の植樹をしております。

具体的な場所については対雁築堤という国道275号から下流側に進んだところに植樹

をしております。

各企業や学校においても、植樹を行いたいといった情報があれば市として何ができるのか検討していきたいため、ご意見いただきたいと思います。

○押谷部会長

植樹をしたくても植樹できる場所がないといった声も聞こえているため、市としてできることがあれば、取り組んでいただきたいと思います。

○中井委員

2 ページ Check 欄の参考指標に「環境関連イベント等への参加者数」が記載されており、初期値から数値が大きく向上していますが、どのようなイベントをまとめて環境関連イベント等としているのでしょうか。

○環境課長

環境イベントの主なものについてですが、一番大きなイベントは毎年6月に野幌公民館で開催しております、えべつ環境広場です。えべつ環境広場には2日間の開催で約600名が参加しております。

もう1つは大人向けのイベントとなっておりますが、市民に環境について知ってもらうために年5回えべつ市民環境講座を野幌公民館で開催しております。これは講師を招いて5回それぞれ異なったテーマで環境についての講演をしていただいております。

また、出前環境講座や各学校へ出向いての環境授業があります。こちらの参加人数も約300人と大きくなっております。各学校のリクエストに沿う形で学校へ出向いて出前授業を行うなど、小学生や中学生を対象にした環境学習のイベントを開催しております。

【廃棄物対策課長から施策02循環型社会の形成について説明】

【質疑】

○中井委員

6 ページ展開項目改訂文章案の「ごみ資源化の推進」において、見直しの変更なしと記載されていますが、やや納得できない部分があります。一般廃棄物処理基本計画の中間見直しが平成32年で終わるので、次の計画を見越して政策を見直していく必要があるのではないのでしょうか。

その最たるものとして、現在江別市では雑紙とプラスチックの資源化を行っておらず、生ごみの資源化も長期的に検討する必要があると考えます。

○廃棄物対策課長

ごみの資源化につきましては、容器包装リサイクル法により一定程度回収品目が定められております。現在市では白色トレイのリサイクルを行っておりますが、市民の要望からすると品目が少ないとは感じております。処理施設の機能を根底に資源回収を行っておりますが、品目の見直しや生ごみの資源化については、今後も引き続き検討していきたいと考えております。

○押谷部会長

個別の廃棄物減量等推進審議会において、具体的な品目等について記載されていくということですので、総合計画には具体的な品目は記載しない方向で考えています。

○中井委員

少なくとも変更なしとするのではなく、検討するといった記載が必要ではないでしょうか。

○押谷部会長

中井委員の意見を踏まえ、「分別品目の見直し」等の文言の追加を検討していただきたいと思います。

○安孫子委員

発生抑制（リデュース）が事業者や家庭にどのように浸透しているのか疑問があります。

生産者は不良品が発生してしまうと、すべて廃棄する必要が出てきます。そういったことを極力減らしていく啓発を行っていくと、資源の節約につながると思います。

対象となる事業所あるいはレストランといったところで、どういったことが省資源になっているのかということの啓発も含めて行うと良くなるのではないかと思うため、検討していただきたいと思います。

○押谷部会長

事業所に対して事業系一般廃棄物や産業廃棄物の減量化や資源化の取組を積極的に啓発していただきたいということです。

○廃棄物対策課長

事業系のごみ排出量は減少傾向になってはいますが、目標には達していないので、今年度も事業者用にごみの分別のパンフレットを現在作成しており、今後も啓発活動を行っていきたいと思います。

○萩原委員

ごみの分別については、分別の種類が少なく、他市町村と比較してもごみを出しやすい環境と思い、その点は評価しております。その上で、ごみ出しルールについての質問ですが、文京台地区の大学生に対しての説明会の成果をどのようにとらえているのでしょうか。もし成果が出ていないのであれば、後期に向けてどのような対策を検討しているのでしょうか。

また、ごみ出しのルールを守っていない方はどの地区にもいると思いますが、とりわけルールが守られていない地区に対しては、どのような啓発をしているのでしょうか。

○廃棄物対策課長

新入学のガイダンス時に時間をいただき、大学生に対し、ごみの分別のお願いをしております。残念ながら、学生地域については居住の入れ替えが激しいため、一般の方と比較すると分別が定着しにくいといった問題もあります。共同住宅の管理会社と連携しながら、個別に分別の指導を強化し、少しでも分別の必要性を知っていただけるよう努力しております。

○環境室長

他地区の分別についてですが、廃棄物対策課指導係が都度分別の出来ていない地区について、一戸一戸ごみステーションの利用者に対して分別の周知等を行っております。

○豊田委員

4 ページ Do の欄に古着や小型家電の拠点回収を実施している、と記載されていますが、拠点回収は市内で何か所あるのでしょうか。

○廃棄物対策課長

豊幌地区センター、野幌鉄南地区センター、水道庁舎、市役所、環境事務所といった市の施設を含めた市内5か所に設置しております。

○豊田委員

私自身は野幌鉄南地区センターの近くに住んでいるため、非常に助かっていますが、近くに回収拠点が無い方にとっては利用しづらいと思うので、今後回収拠点が増えると良いと思います。

○押谷部会長

これについては具体的な施策ですので、廃棄物減量等推進審議会においても議論していただきたいと思います。

○安孫子委員

市内から出たごみのどの程度の量が環境クリーンセンターに送られ、また最終処分場に行われているのか、そのごみ処理の流れ等について把握しているのであれば資料を提示していただきたいと思います。また、他市町村から受け入れているごみの量についても教えていただきたいと思います。

○押谷部会長

事務局には、ごみの処理の流れや量について分かるような資料を次回の審議会までに用意していただきたいと思います。

○安孫子委員

民間事業者のごみの量は把握しているのでしょうか。

○企画政策部次長

通常、一般廃棄物については市町村の役目で把握していますが、産業廃棄物の場合は越境の関係もあり把握することが難しい状況です。

○山崎（雅）委員

燃やせないごみの捨てる場所が減少していると聞いたことがありますが、現状はどうでしょうか。

○廃棄物対策課長

不燃ごみにつきましては、プラスチックや木材の塊が該当しますが、これらについては粉碎した上で、燃やせるものは燃やし、その灰が固まったスラグというものを路盤材として活用しています。

環境クリーンセンターでは最終処分場に行く灰の量がきわめて少ない施設ですので、最終処分場については当初の計画よりも使用できる面積が残っております。

○山崎（雅）委員

そういったことを含めて、市民は分かっていない方が多いので、教えていただけるような

資料があるとごみを捨てる人の励みにもなり、ごみの減量につながると思います。

○押谷部会長

5 ページ check の欄で市民 1 人当たりのごみ排出量は初期値と比較すると 5.7%減少していると記載されていますが、2 ページ「人と自然の共生」の check 欄にも同様の参考指標が掲載されています。2 ページの方の指標は削除していただくということは可能でしょうか。重複しているのはいかがなものかと思えます。

○政策推進課参事（総合計画・総合戦略）

これは同じ政策ということで、参考として記載しております。最終的に整理をしたものを公開したいと思えます。

○押谷部会長

分別品目の見直しについて展開項目に盛り込んだらどうかといった意見や、事業系廃棄物の啓発についても今後取り組むことをまとめていきたいと思えます。また、文京台等の大学生が多く住んでいる地区に対しての分別の啓発、あるいは自治会の中での分別方法の指導、啓発についても積極的に取り組んでいただきたいといったものであります。

また、後期に向けての課題の中に災害廃棄物処理計画が記載されていますので、これも取組の基本方針に盛り込むことを検討していただきたいと思えます。

【政策 05 都市基盤】

【街路整備課長から施策 01 市街地整備の推進について説明】

【政策推進課参事（住環境活性化）から施策 01 市街地整備の推進について説明】

【事務局から施策 01 市街地整備の推進について説明】

【質疑】

○碓井委員

要望ですが、3 ページ後期に向けての課題欄で、「他課と連携した子育て世代の定住に向けた手法の構築」と記載されており、他課と連携ということは重要なことですが、非常に難しいことだと思います。子育て世代の定住ということは将来の江別に向けて大事なことであり、高齢者が住みやすい住環境づくりと別扱いとしても良いほど大きな問題であると思えます。将来の江別のことを考えると慎重かつ積極的に取り組んでいただきたいと思えます。

○中井委員

長期的にみると江別市は人口が減少していきます。取組の基本方針「計画的な土地利用の推進」については、人口減少の実態に合わせた見直し検討が必要なのではないでしょうか。担当部局としての考えを聞かせていただきたいと思えます。

もう 1 点は、この展開項目の中にコンパクトシティとしての発想がどこまで盛り込まれているのかということです。コンパクトシティにしていくという考え方を記載した方が良いのではないのでしょうか。

また、これに関連して江別の顔づくり事業についてですが、私自身この事業を良く理解していないので、どのような事業を行っているのかが分かるような資料を提示していただきたい

いほか、顔づくり事業は平成30年で終了となるため、平成31年度以降の展開について教えていただきたいと思います。

最後にもう1点、公園整備の推進ですが、現在の公園の利用状況を見ていると、ニーズに合った公園の整備なのか疑問に思います。誰もが憩える公園を増やすというよりもニーズに合った整備が必要だと思いますが、担当部局としての考えを教えてくださいたいと思います。

○都市計画課長

コンパクトシティの関係でお答えしたいと思います。総合計画の内容を受けまして、都市計画マスタープランを平成26年に改定しております。その中に都市づくりの目標として駅を中心とした集約型都市構想、江別版コンパクトなまちづくりを位置付けており、今後のまちづくりは駅を中心とした拠点に都市的機能を集約するといった考えを基に進めております。この考え方は今後の人口減少に対応した都市ということであり、取組の基本方針の「計画的な土地利用の推進」につながるものと考えております。

○押谷部会長

平成26年に都市計画マスタープランが作られ、そこにコンパクトなまちづくりといった内容が盛り込まれているため、具体的に展開項目にも記載していただいた方が総合計画を基に都市計画マスタープランを作成し、概念に基づいているということになるかと思いますが、事務局としていかがでしょうか。

○政策推進課参事（総合計画・総合戦略）

その点につきましては、行政審議会において記載の必要があるということであれば、答申に向けての提言としてまとめていただきたいと思います。

○押谷部会長

顔づくり事業についてはいかがでしょうか。

○街路整備課長

顔づくり事業については、南北のアクセスを改善するために鉄道の高架事業を行っております。その他、都市機能の充実ということで、駅前広場の整備や周辺道路の再整備を行っており、都心地区として野幌駅周辺地区の利便性を高める方向性としております。

顔づくり事業の今後についてですが、基盤整備としては平成31年度で終了としております。

また、要求のありました資料ですが、事業概要パンフレットがございますので、提出させていただきます。

○押谷部会長

平成31年度以降について予定しているものはあるのでしょうか。

○顔づくり推進室長

建設部として都市基盤は31年度で終了ということですが、地元の活性化協議会等で商店街の皆さんを中心とした活性活動は継続していくと思われれます。

○都市建設課長

公園の利用状況に踏まえ、ニーズに合った整備が必要ということですが、平成26年から

29年に4公園を全体整備しておりますが、その際には地元自治会、校区内の小学校、アダプト団体を対象に年4回ワークショップを行い、その中で整備計画を作成し、市民協働による公園再整備を進めております。

期間中には4公園となっておりますが、公園整備は平成15年から進めておまして、28年度までに13公園を整備しております。

○岸本委員

江別の顔づくり事業については、建設部としての事業進捗率が現在80%となっており、改修事業も順調に進んでいるということですが、31年度で事業が終了した後の取組の中で、駅を中心とした賑わいのあるまちづくりとうたっている以上、建設部での担当が終わった後、後期の事業として企画政策部や経済部が民間や地元との兼合いを出していかないと、民間ベースで計画性の無い開発が行われることが懸念されます。実際に駅を中心としたまちとうたっているながら、上江別地区や大麻地区に大型商業施設ができたことにより、人の流れが駅中心から大きく変わっているため、行政として都市整備の考え方を打ち出すべきかと思えます。

○企画政策部次長

具体的にはまだ全く決まっておりませんが、江別の顔づくりは野幌駅ということで、都市基盤の方が終わりましたも、地元の活性化協議会で活性化の計画を持っていますので、それに基づいた形で野幌地区の活性化は進んでいくと思えます。

野幌駅以外の計画は現時点でありませので、今後の検討課題になるかと思えます。

○中井委員

本日机上に配付されました江別市公共施設等総合管理計画の26ページをみると平成27年度から急速に水道施設の更新経費が上がり、今後も高い水準で推移していくようですが、それに伴った展開項目の修正は不要でしょうか。

○押谷部会長

中井委員がおっしゃっていることは事業費についてでしょうか。それとも今後の計画についてでしょうか。

○中井委員

現在既に水道施設の更新経費が多く増えております。これが今後も続くということになると、水道経営そのものが大変なのではないでしょうか。上下水道の整備に係る展開項目の中でその辺についての考え方が記載されても良いと思えます。

○政策推進課参事（総合計画・総合戦略）

今後、重要度や優先度を精査して効率的に各施策を進めていくため、上下水道のインフラの部分について更新費用が嵩んでいく中で、どのような方針をもって進めていくのかという方向性についてということよろしいでしょうか。

○押谷部会長

基本的には具体的な施策については議論しませんので、後期に向けての課題の中に記載されていることについて議論を進めていきたいと思えます。そのため行政審議会の方向性としては記載のとおりかと思えますが、中井委員いかがでしょうか。

○中井委員

承知しました。

○安孫子委員

先ほど、顔づくり事業についての説明がありましたが、現状をみていると、その後どうするのかという問題を市の計画の中に盛り込むのかどうかということだと思います。インフラ整備と同時に利活用について進めていけば、事業終了時にまちづくりにつながったと思います。まだ、これから色々と検討を重ねていかななくてはならない状況だと思います。

今までの視点とは違った打ち出し方や手段を講じて、再構築を考える必要があると思います。

【都市建設課長から施策02交通環境の充実について説明】

【政策推進課参事（公共交通）から施策02交通環境の充実について説明】

【質疑】

○岸本委員

春になると道路の補修をしたいと思います。ただ穴を埋める補修ではなく、今後1年間で水道工事や道路工事をこの範囲で行うという地図があり、そのような工事についての予算は年々減少しているのでしょうか。

実感として、ここ2、3年で生活道路の痛みが気になります。

自然環境が絡む問題なので、仕方のないことかと思いますが、以前は補修が進んでいたように感じます。予算が無く補修が進んでいないのでしょうか。参考までに教えていただきたいと思います。

○押谷部会長

生活道路に関する補修の状況が分かるような資料を提供していただくことは可能でしょうか。

○道路管理課長

そのような資料はございませんが、基本的に予算額につきましてはここ数年間大きな増減はありません。

穴は基本的には埋めるということで補修していますが、生活道路の道路整備に合わせても行っていきます。

○岸本委員

穴は埋めていると思いますが、段差の整備が以前と比較するとペースが遅いように感じます。

○道路管理課長

生活道路の改修ということでは事業費に大きな変化はありませんが、労務費や材料費が高くなっているため延長進度は少しずつ遅れているというところはございます。

○安孫子委員

国道12号と公園通りの交差点の北側が大きくへこんでいることが非常に気になります。

市では道路の状況をどのように把握しているのでしょうか。

また、除雪に関してですが、業者の方は一生懸命やっていると思いますが、ガソリンスタンド等は非常に綺麗に除雪をしている分、生活道路に排雪しており、そのため道路が狭くなっています。道路への排雪を辞めてもらう啓発を行い、マナーを守ってもらえれば安全で快適な道路環境になると思います。

○押谷部会長

安孫子委員のご意見につきましては、担当部局で今後の検討課題として認識していただきたいと思います。

○中井委員

道路や橋梁の整備について、計画時点から大きく変化したのは長寿命化を打ち出したことだと思いますので、展開項目を見直すにあたっては「長寿命化」と言った文言を追記してはいかがでしょうか。

○押谷部会長

今後検討していきたいと思います。

【政策09計画推進】

【政策推進課参事（総合計画・総合戦略）から施策01自主・自立の市政運営の推進について説明】

【事務局から施策01自主・自立の市政運営の推進について説明】

【質疑】

○中井委員

自治基本条例について昨年度委員会が開催され、検討が行われていますが、この内容について、なぜ政策点検シートに記載がされていないのでしょうか。

○政策推進課参事（総合計画・総合戦略）

以前、総合計画につきましては、法令で策定が義務付けられておりましたが、現在はその規定がなくなり、総合計画の作成有無は市町村の自主的な判断となっております。江別市の総合計画については自治基本条例が策定の根拠となっております。

自治基本条例に規定している市民参加条例や情報公開条例に関わる部分につきましては、それぞれ個別に記載させていただいております。

○中井委員

部会長への要望ですが、自治基本条例との関連については両部会で検討すべきではないでしょうか。

○押谷部会長

それについては、そもそもが自治基本条例に基づいてこの総合計画を策定しているので、個別に施策の中で記述する必要はないと思います。総合計画の後期版の中で、自治基本条例に基づいて計画を策定し、見直しを行ったという旨の記載があればよろしいと思います。

○政策推進課参事（総合計画・総合戦略）

自治基本条例のあり方等については、自治基本条例の検討委員会の中で議論していただきたいと思います。

○安孫子委員

取組の基本方針に記載されています「基礎自治体」とはどういった意味でしょうか。

○企画政策部次長

自治体というと広域の北海道も含まれますので、その下の単位として江別市を基礎自治体と位置付けております。

○押谷部会長

用語解説欄等への追記を検討していただきたいと思います。

【広報広聴課長から施策02 透明性と情報発信力の高い市政の推進について説明】

【事務局から施策02 透明性と情報発信力の高い市政の推進について説明】

【質疑】

○安孫子委員

それぞれの担当部局での考えや今後取り組んでいきたい事業について、直接現場へ行き話を聞くようなことはあるのでしょうか。

○広報広聴課長

市ではこれからやろうとしている事業の情報というよりも、各担当が出前講座のようなものを広報誌などを通じて積極的に取り組んでいきたいと思います。今後は市民からの意見を待っているだけでなく、積極的な広聴のあり方についても検討していきたいと思います。

【市民生活課参事（市民協働担当）から施策03 男女共同参画による市政運営の推進について説明】

【質疑】

○押谷部会長

参考指標として、「男女が平等だと思える市民割合」が減少しておりますが、これは何人アンケートをとったものなのでしょうか。

○市民生活課参事（市民協働担当）

毎年実施しておりますまちづくり市民アンケートは5,000人を対象に行っております。

○碓井委員

「男女共同参画の考えが必要だと思える市民割合」について平成27年度が53.2%であったことに対して平成28年度は62.7%まで急激に増加しております。これはセミナー開催などによる意識啓発のみによって増加したのでしょうか。

○市民生活課参事（市民協働担当）

正確な要因は把握し切れてはいませんが、毎年行っている啓発活動が徐々に効果が現れているのかと思います。しかしながら、来年度までの目標数値としては70%を設定している

ため、今後も努力していく必要があると考えております。

○山崎（雅）委員

男女共同参画の大きな大会が昨年は森町、今年は苫小牧市でありました。道内で大きなイベントが開催され、それに伴い指標が向上すると嬉しい気持ちになります。

○押谷部会長

近いうちに江別市でも開催できたら良いと思います。

○岸本委員

施策02に戻り申し訳ありませんが、総合計画策定の時にもシティプロモーションについては新たな重要な取組ということで地域おこし協力隊が配置されていますが、後期に向けての課題で協力隊の任期が満了となった後の展開についての記載があっても良いのかと思います。

○企画政策部次長

企画政策部で持っている事業として、主に住み替え事業を中心に行っていますが、その継続の関係でしょうか。それとも全体的なシティプロモートに関わることでしょうか。

○岸本委員

住み替えということであれば、色々アピールする項目が出てくると思います。後期に向けての課題欄に明確に記載してはどうでしょうか。

○政策推進課長

大麻の住環境活性化の中でも協力隊を配置しており、その中で大麻住環境に特化したシティプロモーションを協力隊の下で行っております。市としてのシティプロモーション自体をまちづくり政策の中で記載していくという形になるので、住環境の考え方が記載されていないということは岸本委員のご指摘のとおりだと思います。ただ、シティプロモーションそのものは大麻地区に限らず、江別市全体で今後も引き続き行っていく必要があります。江別市としては、主要なターゲットを札幌圏の子育て世代として行っているところです。今後も考え方は変わらず引き続きやっていく必要があるため、まちづくり政策点検シートの中ではこのような記載になると思います。

○押谷部会長

市全体としてのシティプロモートという概念の中で、こういった記載方法が良いのかということにつきましては今後検討したいと思います。

■次回の審議会について

■その他

■閉会